

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年3月1日

事業所名 まなびやかけはし

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	100%				
	②	職員の配置数は適切である	100%				人員配置は考慮して週休有給の消化が できていると思う。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	92%	8%			
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画 している	92%	8%		振り返りシートを活用し ている。	打つ合わせや会議の時間を増やし 適 切に円滑に進んでいると思う。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	77%	23%			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	77%	23%			ホームページの記事の更新は毎週アップ している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	54%	46%			
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	92%	8%			2か月に一度 日曜日に研修会を 行っている。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	92%	8%			今後 保護者面談の回数を増やせる様 に調整していきます。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	85%	15%			契約時の基礎調査票を記入して 頂いている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			・各分野ごとに会議をし て大まかな内容を決定 し、主となる指導員が詳 細を決めている。	月間・週案予定の作成と当日の確認を 行っている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	100%				継続する必要がある作品作りや理解の 度合いによって繰り返し行うプログラ ムはある。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	92%	8%			受入時間の長い長期休み機関では通常 体験できない課題を考えて行ってい る。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	100%				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	92%	8%		・補助の先生がいる場合 は事前に打ち合わせをし て予測される子供の動き への対応も考えている。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	77%	23%		・帰りの送迎などで振り 返りが出来ない時は重要 な内容はラインで情報共 有行っている。	送迎後に直帰する職員からは 内容に よってその日のうちにlineでの報告が あ翌日 職員全体での話し合いを行っ ている
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			補助の先生の見解も聞き なるべく正しい記録を取 るように心がけている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	92%	8%		それぞれの項目で担当を 割り振り相談しながら見 直している。	基本的には3か月に1度モニタリングと 支援プランの見直しをしている。利用 が週に1度の児童は4～5ヶに1度行っ ている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	85%	15%			
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	85%	15%			
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	92%	8%			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えてい る	23%	69%	8%	・対象児童がない	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	77%	23%			
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	46%	54%			
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	46%	54%			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	8%	69%	23%		通常の療育日には 交流は行えず イベントなどで参加を促している。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	38%	62%			人員配置や業務の状況に応じて できる限り参加するようにしている。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	100%			・ラインまたは口頭でそ の日の活動内容や気にな った事など情報交換し ている。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	85%	15%			今までは個別面談の中で家庭での対応 についてアドバイスを行っていたが 今年度はペアレントトレーニングを行 う
	保	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	92%	8%		その場で助言出来る場合 は伝え答える事が難しい 場合は主任や児発管に報 告して他機関へつなげて いる
㉑		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	92%	8%			
㉒		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	62%	38%		・夏祭りなど保護者が参 加するイベントがある	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	85%	15%			相談やご意見に対しては 速やかに対応していると思う。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	92%	8%		・HP、LINE等を活用	ホームページでは週に1度 記事の更新をしている。 セミナー・勉強会のご案内はlineで全員へご案内している
	③⑤	個人情報に十分注意している	92%	8%			定期的に意識確認を行う予定。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%			・夏祭りでは近隣の方も招待を行っている ・去年は事業所で行われた夏祭りに近所の方を招待した。	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	92%	8%		・新人研修及び定期研修を行っている。	
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	85%	15%		定期的に避難訓練を行っている。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	92%	8%			
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	84%	8%	8%	・対象児童がいない	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	85%	15%			アレルギーのあるお子様のアレルギーについて誰でも確認できる様に掲示している。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	85%	15%			些細な事もヒヤリハットの事例として会議での報告と検討を行っている。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。